資料３

報告書（案）について
（改善の方向性、改善の具体策、留意事項）

【専門委員会における主な調査・検討事項】における「◎」の表記は、第４回研究協議会で概ね了承されたもの

（１）選抜制度（一般選抜・特色化選抜の在り方等）

ア　入学者選抜において第２志望校まで出願できる選抜制度の導入

【改善の方向性】

受検生の心理的負担への配慮及び学校の負担軽減の観点から、入学者選抜において第２志望校まで出願できる選抜制度の導入等により、入学者選抜と再募集の一体的な改善を検討する必要がある。

⇩

現行制度の成果を生かし、一般選抜と特色化選抜を一本化した入学者選抜を実施することを基本とするが、入学者選抜に第２志望校まで出願できる制度を導入することが望ましい。

また、入学者選抜では現行どおり一般選抜と特色化選抜を行うこととし、第２志望校まで出願する場合においても、学力検査は第１志望校における１回の実施とすることが望ましい。

【改善の具体策】

入学者選抜で、第１志望と異なる学校への第２志望までの出願を認め、当該高校を第１志望とする出願者が募集人員に満たない場合に、第２志望とした出願者から合格を決定することが望ましい。また、第２志望校への出願による新たな検査を実施しないことが望ましい。

【留意事項】入学者選抜において第２志望校まで出願できる選抜制度について

第２志望校における選抜方法について、第１志望校で受検した学力検査の得点の取扱いや、学力検査及び追検査を受検できなかった受検生の取扱い等について、検討する必要がある。

【専門委員会における主な調査・検討事項】

① 報告書に記載する制度名称について

➠ 「併願制度」という名称は、関係者に誤解を与える可能性があるため、表記を「入学者選抜において第２志望校まで出願できる選抜制度」とする。

② 学校・学区の制限について

➠ 制限しない。

③ 第２志望校における選抜方法について

➠ 各教科の学力検査の一部に共通問題（採点基準が統一された問題）を設定し、第１志望校で受検した学力検査の共通問題の点数及び調査書により選抜を行う。（面接は実施しない。）

④ 定時制の課程を含めた本選抜制度の導入について

➠ 定時制の課程にも、入学者選抜で第２志望校まで出願できる選抜制度を導入する方向で検討する。

イ　部活動及び地域クラブ活動等の点数化

【改善の方向性】

部活動の地域展開が推進されている現状を踏まえ、部活動や地域クラブ活動等に係る評価方法や点数化の在り方について様々な意見が出され、その扱いについては意見が分かれた。

⇩

部活動及び地域クラブ活動等の点数化については、現行制度の成果を生かし、受検生の多様な能力、意欲、適性等を適切に評価することが望ましいという意見がある一方で、中学校における部活動の地域展開には地域差があり、公平性の観点から現状のままの点数化には課題があるという意見があったことを付す。

【改善の具体策】

特色化選抜において、生徒の多様な能力、意欲、適性等を適切に評価することが望ましい。

【留意事項】部活動及び地域クラブ活動等の評価について

特色化選抜における部活動及び地域クラブ活動等の実績等の点数化については、慎重に検討する必要がある。また、「求める生徒像・選抜方法等一覧」の表記等を改善するなど、生徒、保護者にわかりやすく伝わるようにすることが望ましい。

【専門委員会における主な調査・検討事項】

① 学校ごとに特定の活動等を評価することについて

➠ 特定の活動等を評価することは、同じ学校を志望している生徒の中で、当該活動等に取り組んでいない生徒が評価対象とならないため、公平性の観点から望ましくない。

② 部活動及び地域クラブ活動等の点数化について

➠ 様々な意見があったことを踏まえ両論併記することとし、留意事項に慎重に「検討する必要がある」旨を記載する。

ウ　選抜の透明性の確保

【改善の方向性】

一般と特色化のどちらの選抜で合格したかについては、保有個人情報の提供の対象となっていないため、不透明であるとの指摘があり、様々な意見が出された。

⇩

一般と特色化のどちらの選抜で合格したか情報提供することについては、受検生の心情を配慮し、慎重に検討する必要がある。

【改善の具体策】

一般と特色化のどちらの選抜で合格したか情報提供することについて、情報提供しないことが望ましい。

※留意事項なし

【専門委員会における主な調査・検討事項】

◎第４回研究協議会の協議内容を踏まえ、どちらの選抜で合格したか情報提供しない方向で記載する。

エ　日本語支援が必要な生徒への配慮

【改善の方向性】

日本語支援が必要な生徒が増加傾向にあることを踏まえ、日本語支援が必要な生徒が学ぶ機会を確保する必要がある。

⇩

日本語支援が必要な生徒への配慮については、多様性を包摂する観点から、選抜方法及び入学後の指導体制について検討する必要がある。

【改善の具体策】

日本語支援が必要な生徒の定員枠を設置することが望ましい。

【留意事項】

出願資格及び選抜方法等を検討するとともに、入学後の受入体制を整備する必要がある。

【専門委員会における主な調査・検討事項】

◎第４回研究協議会の協議内容を踏まえ、日本語支援が必要な生徒の定員枠を設置する方向で記載する。

（２）学力検査・調査書

ア　国語の放送による検査の改善

【改善の方向性】

記憶力を測るだけの出題となっているのではないかとの指摘があり、実施の是非や出題内容について意見が分かれた。

⇩

国語の放送による検査については、生徒の聞き取る力を見取る方法として、放送による検査の在り方を検討することが望ましい。

【改善の具体策】

国語の放送による検査について、重視されるべき能力を適切に評価することに留意し、生徒の聞き取る力を見取る方法の妥当性について検討する必要がある。

※留意事項なし

【専門委員会における主な調査・検討事項】

◎第４回研究協議会の協議内容を踏まえ、国語の放送による検査の在り方を検討する方向で記載する。

イ　調査書の「部活動」欄の見直し

【改善の方向性】

部活動に加入していない生徒は「部活動」欄が斜線となるため、入学者選抜において不利になるのではないかとの誤解を与えるおそれがあることや、部活動の地域展開が推進されている現状を踏まえ、「部活動」欄の取扱いについて検討する必要がある。

⇩

国の動向等を注視しながら、調査書の記載事項を見直すことが望ましい。

【改善の具体策】　※「ウ　不登校生徒への配慮」と同じ

調査書の「部活動」欄及び「欠席の状況」欄を削除し、記入欄を見直すことが望ましい。

※留意事項なし

ウ　不登校生徒への配慮

【改善の方向性】

不登校生徒が増加傾向にある状況や、不登校生徒にとって調査書に欠席日数を記載する欄があることにより、心理的負担や入学者選抜における不安につながっているとの指摘があることを踏まえ、調査書の「欠席の状況」欄や「各教科の学習の記録」欄の取扱いについて検討する必要がある。

⇩

国の動向等を注視しながら、調査書の記載事項を見直すことが望ましい。

【改善の具体策】　※「イ　調査書の「部活動」欄の見直し」と同じ

調査書の「部活動」欄及び「欠席の状況」欄を削除し、記入欄を見直すことが望ましい。

【留意事項】

不登校生徒の多様な実態を踏まえ、特別の教育課程における学びを高等学校へ適切に接続する観点から、評定及び記述による評価等や、自己申告書の取扱いについて、引き続き検討する必要がある。

【専門委員会における主な調査・検討項目】※上記イ及びウに関すること

① 「部活動」欄及び「欠席の状況」欄について
　➠ 研究協議会の協議内容を踏まえ削除し、部活動及び地域クラブ活動等の実績等は「スポーツ活動、文化活動、社会活動、ボランティア活動等の記録」欄に記載する。

② 特別活動（学級活動、生徒会活動、学校行事）に係る欄について
　➠ 一つの欄に統合する。

③ 「資格・特技」欄について
　➠ 削除し、取得している資格及び特技については、新設する「スポーツ活動、文化活動、社会活動、ボランティア活動等の記録」欄に記載する。

※①～③のほか、各欄の大きさを調整する

（3）受検機会・選抜日程

ア　受検機会の確保

【改善の方向性】

現行制度の成果を生かし、入学者選抜により欠員が生じた場合は、補充するための再募集の実施を検討する必要がある。

⇩

入学者選抜に第２志望校まで出願できる選抜制度を導入する場合についても、多様な選抜方法の拡充や、受検機会を確保する観点から、再募集を実施することが望ましい。

【改善の具体策】　※一部「イ　選抜日程の改善」と同じ

入学者選抜に第２志望校まで出願できる選抜制度を導入し、このほかに再募集を実施することが望ましい。なお、入学者選抜で合格した者は、再募集に出願できないこととする。

【留意事項】再募集の検査等について

調査書及び面接を基本とするが、学校の負担軽減及び受検生の学力を適切に見取る観点から、学力検査の実施について慎重に検討する必要がある。

イ　選抜日程の改善

【改善の方向性】

現在の選抜日程を基本としつつ、追検査の実施により長期化している選抜日程を改善する観点から、入学者選抜と再募集の一体的な改善を検討する必要がある。

⇩

入学者選抜と再募集の一体的な改善を図るため、入学者選抜に第２志望校まで出願できる選抜制度を導入することが望ましい。

【改善の具体策】

入学者選抜に第２志望校まで出願できる選抜制度を導入することが望ましい。また、入学者選抜及び再募集の全日程を、３月中旬までに終了することが望ましい。

【留意事項】

期日の決定については、今後の状況の変化や選抜実施年度の曜日など、中学校及び高校関係者の意向を踏まえ、日程調整する必要がある。

【専門委員会における主な調査・検討項目】※上記ア及びイに関すること

① 再募集の在り方について
　➠ 多様な選抜方法の拡充及び受検機会を確保する観点から、再募集を実施することが望ましい。
② 再募集における学力検査の実施について
　➠ 研究協議会の協議内容を踏まえ、留意事項に「学力検査の実施について慎重に検討する必要がある」旨を記載する。
③ 出願資格及び選抜方法について
　➠ 現行制度のとおり、入学者選抜で合格した者は、再募集に出願できないこととする。